

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	Cutaneous nonmelanoma malignancy	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Sentinel node biopsy for high-risk nonmelanoma cutaneous malignancy	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し （ 1 ）	
	ガイドライン上での目次名称	SCCCQ6-4	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー／メタアナリシス II. 1 つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見（ V ）	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID		
	雑誌名	Arch Dermatol	
	雑誌 ID		
	巻	140	
	号	1	
	ページ	75-79	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 （ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 （ 2 ）	
	発行年月	2004	
	著者情報		氏名
筆頭著者		Wagner JD	Division of Plastic surgery, Department of Surgery, Indiana University School of Medicine, USA
その他著者 1		Evdokimow DZ	
その他著者 2		Wenck S	
その他著者 3		Coleman III JJ	
その他著者 4		Weisberger E	Department of otolaryngology/Head and Neck Surgery
その他著者 5		Moore D	Department of Gynecology and Oncology
その他著者 6		Chuang T-Y	Department of Dermatology
その他著者 7			
その他著者 8			

一次研究の 8 項目	目的	High-risk cutaneous nonmelanoma malignaicies に対するセンチネルリンパ節の妥当性の検討	
	研究デザイン	症例集積研究	
	セッティング	1 大学(Referral university medical center)	
	対象者	臨床的に所属リンパ節転移のない high-risk cutaneous nonmelanoma malignaicies 24 症例	
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)	
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (14)	
	介入 (要因曝露)	センチネルリンパ節生検	
	エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分
	1	sensitivity	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	2		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	3		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	4		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	5		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	6		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	7		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	8		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	9		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	10		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	主な結果	24 症例中有棘細胞癌は 17 例。 17 例中 5 例にリンパ節転移があり、うち 4 例はセンチネルリンパ節であったが、1 例は nonsentinel node であった。この 1 例は原発巣の初回手術例ではなく、頭皮原発の有棘細胞癌再発例であった。24 例全体での経過観察期間の中央値は 10 か月で、領域内の非センチネルリンパ節への転移は起こらなかった。センチネルリンパ節生検を行った 24 例における Sensitivity は 88%、 negative predictive value は 0.94 であった。	
	結論	センチネルリンパ節生検はリンパ節への微小転移を診断するための有用な方法である。この方法によって、より正確なステージ分類が可能になると考えられる。さらに症例数を増やし、方法を確立すべきである。	
	備考		

レビューワーコメント	レビューワー氏名	山崎直也
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（ V ） 比較的高頻度にセンチネルリンパ節転移がみられている。また有棘細胞癌の再発例に偽陰性例があることから、適応症例はよく吟味すべきと考える